

研修名	第2回 京丹後市自主研修会
	令和元年11月30日(土) 13:45~15:30
講演	「教育現場からみる児童虐待と保護者・児童との向き合い方」
講師	佛教大学 教育学部
	教授 原 清治 氏

## 1、講演要旨

### 1) 虐待を取り巻く環境

#### ①近ごろ流行るもの

- ・ネットゲーム「荒野行動」  
やればやるほど攻撃的になり、言葉遣いが悪くなる。  
他者への攻撃感情が煽られる。
- ・大学生「ぼっち」席  
少し前は、一人でご飯を食べるのを他者に見られたくないため  
“便所めし”する学生がいた。今は「ぼっち」席で他者を気に  
せず食事をする。

#### ②最近の子ども達の間人間関係

- ・リアルな友達よりネットで繋がる友達の方が濃い関係に変化してきた。
- ・自分と同じ価値観をもつ者として友人関係を築かず、他のグループに殆ど関心が向かない「島宇宙化」している。
- ・マスク文化：一種の自己防衛・・・他者と協調できない子  
対話的学習方法への心理的抵抗・・・意見を言いたくない子

### 2) 虐待について

#### ①虐待とは

- ・身体的虐待：服で隠れた部分に傷ができる。(背中・脇腹・陰部・など)
- ・性的虐待・ネグレクト・心理的虐待

#### ②虐待の兆候

- ・子どもの違和感 ・保護者の違和感 ・状況の違和感

#### ③虐待への対応

- ・チームとして対応：学校、市町村、児童相談所、医療機関、警察

#### ④虐待をしない、させない為に

- ・子育てに体罰や暴言を使わない。
- ・アサーションの練習を繰り返し行い、自分の意見を言えるようにする。
- ・子どもの思いを受け止める、自尊感情をもたせる。

## 2、感想

虐待がテーマの講演で内容は重いものでしたが、原先生の軽妙な語り口に引き込まれ、最後まで興味深く聞くことが出来ました。

リアルな人間関係が希薄になり自分の意見が言えない、言いたくない子が増えている中、虐待の兆候を見逃さず子どもが自尊感情をもって自分の意見を言えるようにしていくことが対策につながることを学びました。

また、自尊感情をもつということとはどんな場合においてもとても大切なことだと改めて思いました。

今後、更に子どもの思いを受け止め、存在価値を認め他者との関係の中で意見を聞き入れながら、自分の意見も伝えられるようにしていき、一人一人の子どもが自尊感情をもてるような関わりや支援をしていきたいと思えます。

(記録 京丹後市立丹後こども園 澤田 理絵子 )